

講師：八幡雅彦（別府大学短期大学部名誉教授）
演題：『アメリカからアイルランドへ—ふたりの女性小説家—』

熊本アイルランド協会第27期市民講座
年間テーマ『アイルランドの心の故郷（ふるさと）』

1845～1849年にかけて起ったジャガイモの大飢餓と疫病によってアイルランドの人々は疲弊し、やがて祖国を離れ。多くは新天地を求めてアメリカに渡った。その移民船の船底に若きラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の姿があった。彼が大西洋を越えて渡米したのは1869年であったが、当時アメリカは南北戦争が終り、混沌のうちに近代化を遂げて行こうとする矢先であった。

それ以後ハーンはシンシナティで8年、ニューオーリンズで10年、西印度諸島（カリブ）のマルティニク島で2年の合計20年にわたってジャーナリストとして活躍した。その間生まれ故郷のギリシャと青い海、別れたままの瞼の母を想い、幼少年期に育ったアイルランドのトラモアやダブリンの美しい海辺の風景を片時も忘ることはなかった。

アイルランドの人々のルーツは広大なヨーロッパ文化・文明の根源のひとつをなすケルト民族である。彼らは歴史的に戦よりも平和な文化・文明を好み、これを継承／伝承していく文化力に優れていた。ハーンはこの血を受け継ぎ、文筆活動においては詩的で美しい散文にのせて多くの記事や作品を残した。そこには民族の魂が込められた民話や説話、そして俚諺（諺）などへの深い関心があったのである。

本年度（2025年）秋からはNHKによる連続テレビ小説のドラマ「ばけばけ」が始まる。これを背景にセツ夫人に焦点が当てられ、そこから見えるハーンの姿が松江や熊本を舞台に活き活きと描き出されることでしょう。

この市民講座では熊本に3年間いたハーンの心に触れ、遠くアイルランドひいてはケルトの人々の心の故郷に思いを馳せてみたいと思います。皆様ぜひお越し下さい。

講師からひとこと

アイルランド人のアメリカへの移民の歴史は十八世紀に遡り、その後も一九六〇年代まで衰えることなく続き、彼らはアメリカの政治、社会、文化その他様々な方面で活躍し、アメリカの発展に大きな影響力を及ぼしました。女性小説家フラナリー・オコナーもそのうちのひとりで、短篇「善人はなかなかない」を始めとする恐怖小説で世界的な名声を博しました。彼女の影響を受けたのが北アイルランドの現代女性小説家ジャン・カーソンで、その影響は長編小説『点火人』、短編小説集『子どもたちの子どもたち』等のうちに見られます。「アメリカからアイルランドへ」。オコナーの影響を受けたカーソンの小説が人々の心をどのように照らし、どのような普遍的価値を持つのかについて語ります。

（八幡雅彦）

期日：令和7年8月23日（土）14:00～15:30 参加費：500円（会員は無料）

会場：お菓子の香梅帶山店ドウ・アート・スペース（熊本市中央区帶山7-6-84 国体道路沿い）

次回 令和7年9月27（土）「ハーンの妻セツと『ばけばけ』」西川盛雄（熊本アイルランド協会々員）を開催します。

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイルランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org